水道記念館の水族飼育展示の意義

公益社団法人　大阪自然環境保全協会：岡　秀郎、栗谷　至、金谷　薫

大阪市東淀川区の柴島浄水場南端にある大阪市水道記念館は、大阪市内の明治大正建築物の一つとして貴重な建物で、重要文化財、ライトアップ賞、都市景観大賞などの指定を受けました。

同時に、淀川水系に生息する水族（魚類・甲殻類・水草など）を飼育研究する水族館としても高く評価されてきました。とくに、2002 年（平成 14 年）から始められたイタセンパラの飼育・繁殖では、優れた飼育技術により、貴重種の保護増殖に一役買ってきました。

ここの水族飼育展示の意義と特徴は、以下の５つが挙げられます。

(1)多種類の淀川の淡水魚などを市民に展示公開してきたこと。多いときには 110 種を超えていました。

(2)きわめて多数の人が来館見学してきたこと。浄水場見学の小学生を中心に、15 年間で 100 万人です。

(3)貴重な種を着実に飼育してきたこと。代表は天然記念物のイタセンパラやアユモドキです。ドジョウやナマズなどいわゆる普通種であっても、淀川流域ではすでに貴重な水族が多くなっています。

(4)水質の安全性の監視役として水族が役立ってきたこと。浄化した直後の水で魚類などを飼っているので、水に異常があればすぐにわかります。

(5)河川の自然を回復する拠点になりうること。自然状態では保全困難な貴重種などを飼育しているので、今後淀川などの自然を回復する資源保護や教育等の場として役立ちます。

私たちは、こんな優れた施設が大阪にあることを大いに誇りに思うとともに、2012 年 4 月から休館中のこの施設が維持され、一日でも早く水族展示が再開されることを強く希望しています。

(下図）掲示ポスター、（右上）水道記念館の建物、(右下)水道記念館年表

年　月	主　な　動　き
1914(大正3)年	第1配水ポンプ場として稼働開始
1995(平成7)年11月	**水道記念館開館。** 大阪市水道通水100周年を記念し、水道の歴史やしくみ、水道水源環境に関する知識の普及啓発を図る
1998(平成10)年11月	北側展示コーナーをリニューアルオープン。 淡水魚展示コーナーを開設し国の天然記念物・国内希少野生動植物種のイタセンパラを展示開始
1999(平成11)年	1月　来館者10万人を達成 5月　愛称「水の散歩道(Water Museum)」に決定 9月　国の「登録有形文化財」として指定・登録
2002(平成14)年04月	社団法人日本動物水族館協会に加盟
2002(平成14)年09月	イタセンパラの常設展示を開始
2005(平成17)年07月	日本の水族館ではじめて、環境省のイタセンパラ保護増殖事業計画に適合
2006(平成18)年01月	水道記念館南側展示コーナー・水道展示コーナーリニューアル
2006(平成18)年02月	秋篠宮文仁親王殿下並びに同妃殿下が水道記念館ご来館
2010(平成22)年09月	来館者総数100万人を達成
2012(平成24)年04月	**費用対効果の精査のため一時休館開始**

連絡先：公益社団法人　大阪自然環境保全協会　事務局
担当者　岡 秀郎　電話 06-6242-8720　メール office@nature.or.jp